

児童の思いに寄り添った校内別室指導

不登校児童の状況

対象児童（小学校5年生）は、今年度の2学期から他地区より転入してきた。前籍校では小学校3年生の頃より不登校傾向が見られ、小学校4年生の1年間はほとんど登校できていない状況であった。本校に転入後は、校内別室を利用することで、継続的な登校や学校行事への参加ができるようになった。

具体的な取組

○教室以外の居場所づくり

校内別室を保健室の隣に設置し、養護教諭と密な連携を図れるようにした。

パーテーションや机の配置で、周囲の視線が気にならない落ち着いたスペースを確保した。

支援員による個別支援や少人数の児童同士の関わりを通して、コミュニケーションスキルの向上を図った。

○一日の始まりは予定づくりから

担任や支援員が当該児童と相談しながら、1日の時間割や学習内容を当該児童が決めるようにした。

校内別室に絵具セットやミシン等を準備することで、当該児童の「できる」経験を増やし、図工や家庭科の課題にも取り組めるようにした。



○安心できる人間関係づくり

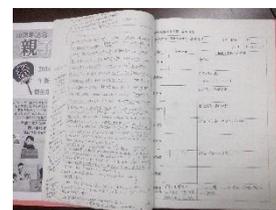
休み時間には支援員が学級の他の児童との橋渡し役となり、校庭で一緒に遊んだり校内別室で交流したりする機会を意図的に設けた。

当該児童の不安や悩み、家庭状況の変化等を素早く把握できるよう、SSWやSCが定期的に校内別室へ来室し、積極的に関わる機会を設けた。

○定期的・継続的な情報共有

定例の校内支援委員会にSSWや支援員が出席し、当該児童の様子や別室の運営状況について情報共有を行っている。

業務日誌や当該児童の個別ファイルを作成し、支援員同士や担任との情報共有に活用している。



成果

校内別室指導支援員が常駐し、当該児童の思いに寄り添った支援を継続的に行ってきたことで、当該児童にとって学校が安心して過ごせる場所となり、継続的な登校へとつながった。

課題

プリント学習や補充的な内容が中心となり、学習の遅れが生じている。

集団での生活経験、学習経験の希薄さの解消を目指した支援方法の検討を進めていく。